

氏名	満 木 久 美
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3867号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Quantitative evaluation by Tl-201 scintigraphy in the diagnosis of thyroid follicular nodules (濾胞性甲状腺腫の良悪性鑑別におけるTl-201シンチグラフィでの定量的評価の有用性)
論文審査委員	教授 榎野 博史 教授 吉野 正 教授 伊達 勲

#### 学位論文内容の要旨

穿刺吸引細胞診で良悪性の鑑別が難しい濾胞性甲状腺腫91結節（良性60結節、悪性31結節）について、Tl-201シンチグラフィの定量的評価の有用性を1)病変部と比較する至適対照部位、至適撮像時間をROC(receiver operating characteristic curves)の曲線下面積(Az)を診断能の指標として比較、2)至適条件下での5つの独立変数(非腫瘍性病変、直径、石灰化、嚢胞、良悪性)との関連性、3)観察者間の再現性、4)良悪性鑑別におけるカットオフ値、の4項目について検討した。1)どの撮像時間においても対照部位を対側正常甲状腺とするT/N ratioのAzが対照部位を頸部軟部組織とするT/S ratioより大きい値であった( $p < 0.05$ )。10分、20分、30分、120分におけるT/N ratioのAzは有意差は無かったが120分で最大(0.887)であった。2)120分におけるT/N ratioと5つの独立変数と重回帰分析では「良悪性」のみが関連性がみられた。3)120分におけるT/N ratioでの同一、異なる観察者間の再現性は、いずれも相関係数0.80 ( $p < 0.001$ )で強い相関が認められた。4)120分におけるT/N ratioにおける良悪性鑑別のカットオフ値を1.25とした場合特異度が91.8%、カットオフ値を1.01とした場合は感度は95.8%であった。Tl-201シンチグラフィの定量的評価は、濾胞性甲状腺腫の良悪性の鑑別に有用と考えられた。

#### 論文審査結果の要旨

本研究は穿刺吸引細胞診で良悪性の鑑別が難しい濾胞性甲状腺腫について Tl - 201シンチグラフィの定量的評価の有用性を検討したものである。至適撮像時間を120分、至適対照部位を対側正常甲状腺とした時の T/N ratio (T/N120) が臨床的に最も有用と考えられた。

本研究は濾胞性甲状腺腫の良悪性の鑑別診断において重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。